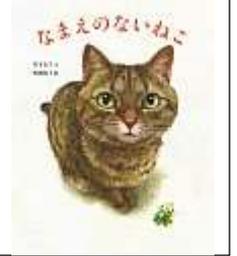


今年度はコロナ対応のため、残念ながらボランティアの皆さんによる読み聞かせを実施することができませんでした。ボランティアの皆さんが「こんな本はいかが」に寄稿してくださいました。

「ねこの絵本は、いかがですか？」

『なまえのないねこ』作：竹下史子 絵：町田尚子（小峰書店）

なまえのないねここと町に住んでいる名前を持ったねこたちの絵本です。
色がとてもきれいです。(yamami)



「心に響いた絵本」

『まっくろネリノ』（偕成社）ヘルガ・ガルラー作 訳：矢川澄子

はじめてこの絵本に出合った時、表紙も黒っぽく悲しいイメージでしたが読んでみるとパステルカラーのきれいな絵とストーリーにとっても感動し、ずっとお気に入りと思いの1冊です。時々、読み聞かせにも登場させてもらっています。(M・Y)



「好きの大きさ」

『どんなにきみがすきだかあててごらん』（サム・マクブラットニイ作 評論社）

登場するデカウサギとチビウサギの関係性が表現されてないので、自分の考える親子、兄弟、親友におきかえて読んでいくとほっこりした気持ちになるお話です。好きの大きさははかれないけど、お互いが負けない位「好き」を伝え合うところがお気に入りです。(新井 亜湖)



「好きな本」

『3びきのかわいいオオカミ』（ユージーン・トリビザス：作 訳：こだまともこ 富山房）

私が保育士をしていた頃、園長から勧めてもらった絵本の中の1冊です。「3びきのこぶた」の逆バージョンで、1匹の悪い大ぶたがかわいい子オオカミ兄弟の家を次々に破壊していきます。その方法が衝撃的で、思わず「えっ！」となってしまいます。最後には両者が考え方を換え、仲良くなったという設定も私は大好きです。もちろん読み聞かせに何回も読ませていただきましたが、どの学年の子どもたちにも面白かった、仲よくなれてよかったなどの感想が出ました。絵本の世界は素敵です。子どもたちが大人になっても絵本を手にとってくれたらいいなあと思います。(廣田 美奈子)



「今までに読み聞かせした本」

『109ひきのどうぶつマラソン』（のはなはるか：作 ひさかたチャイルド）

今まで子どもに読み聞かせをした中でも特にお気に入りの一冊。109ひきのどうぶつ達が金メダルを目指して走ります。絵柄も可愛くて細かくて探し絵もあるので、何回読んでも楽しくて新しい発見があります。最後はいろんな「一番」を見つけられて優しい気持ちになれる本です。(こなち)



*書影は版元ドットコムより